

旭川支部活動報告

小学校部会研究部長 旭川市立永山西小学校 中山 敬史
中学校部会研究部長 旭川市立東陽中学校 新美 雅孝

旭川支部は、旭川市教育研究会保健体育部を軸に活動をしており、150名を超える会員で成り立っている。部長、副部長、事務局長、運営委員を中心とした企画委員会を中心とし、研究委員会、事業委員会、編集委員会の3つの委員会に分かれて組織運営にあたっている。

1 旭川支部の研究

支部研究主題

「自ら求め、積極的にかかわる体育活動」
～わかる・できる・のびる体育学習を目指して～

【 研究仮説 】

指導内容やかかわらせ方を工夫することにより、基礎となる運動技能を身につけたり、体力を高めたりするとともに、自ら運動を求め、積極的にかかわろうとする態度を育てることができる。

研究の視点1～指導内容の工夫	研究の視点2～かかわり合いの工夫
① 実態を踏まえた指導計画の作成 ② 目標の明確化，焦点化 ③ 場づくり，教材・教具の工夫	① 教師と子どものかかわり合い ② <u>子ども同士のかかわり合い<重点></u> ③ 子どもと運動とのかかわり

2 令和4年度旭川支部組織

支 部 長	菅原 彰	(旭川市立北 光小学校 校 長)
副 支 部 長	井上 真吉	(旭川市立神 楽小学校 主幹教諭)
事 務 局 長	堀口 創平	(旭川市立愛 宕中学校 教 諭)
事務局次長	上森 慎詞	(旭川市立豊 岡小学校 教 諭)
	前川 慎也	(旭川市立神楽岡小学校 教 諭)
研究部長(小)	林 裕輔	(教育大学附属旭川小学校 教 諭)
研究部長(中)	新美 雅孝	(旭川市立東 陽中学校 教 諭)

3 活動の経緯（旭川市教育研究会保健体育部）

新型コロナウイルス感染拡大防止への対応により昨年度に引き続き旭川市教育研究大会が中止となった。しかし、旭川支部の研究を止めることなく継続・発展していくため、授業公開ではなく、小中それぞれで授業の様子を撮影する形式で研究授業を行った。その映像を旭川市内の先生方が動画共有サービス「ムービーライブラリ」で視聴し、Googleフォームで意見集約を行った。

令和 3年 4月24日 北海道学校体育研究連盟定期総会参加
7月～ 小・中指導案検討およびプレ授業
10月21日 研究授業
10月28日～ 授業配信開始
令和 4年 1月 7日 北海道学校体育研究大会札幌大会・全道研究担当者研修会参加
3月24日 企画委員会（新年度体制・定期総会について）

4 研究授業の成果と課題 ○成果 ▲課題

(1) 小学校部会研究授業

■第6学年 「走り高跳び」

授業者：旭川市立神楽岡小学校 大平純輝

助言者：北海道教育大学旭川校准教授 高瀬 淳也 氏



○ICT機器の活用については、スプレッドシートを効果的に活用することで、仲間の記録や振り返り等をすぐに共有し、自分の振り返りに生かすことができる。友達同士で動画を見せ合い、互いに関わる場面が見られたのが良かった。個人の記述を教師がタブレット端末でその場で確認できるため、全体の共有がスムーズに行われていた。

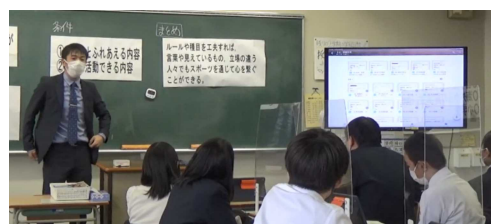
▲本時の課題を集約すると「チーム競争」であるが、児童のチーム競争に向かう意識が物足りなかった。本時は、仲間（チーム）の伸びを認め合う時間を設け、伸びが表れたチームの仲間から、学び合う設定とするとよかった。

(2) 中学校部会研究授業

■第3学年 体育理論「人々を結び付けるスポーツ」

授業者：旭川市立東陽中学校 渡部嘉紀

助言者：旭川市教育委員会指導主事 五十嵐 敬 氏



○映像の中で真剣に取り組んでいる姿から、それぞれ出てきた意見の中から良いところを抜粋し、新たな意見をつくり出している所が見られ、主体的な学びを感じ取ることができた。

○全員が学習にとり組んでいる様子がICTの活用で把握でき、かつ記録化できるのは良いと思う。

▲この授業だけICTを使おうと思っても、生徒がGoogleドライブやクラスルームの使い方に慣れていないと、授業がスムーズに進まない。普段から学校の取り組みとしてどの教科でもICTを使う意識を教員がもつことが大切だと感じた。